

木下真理子(書家)活動ダイジェスト

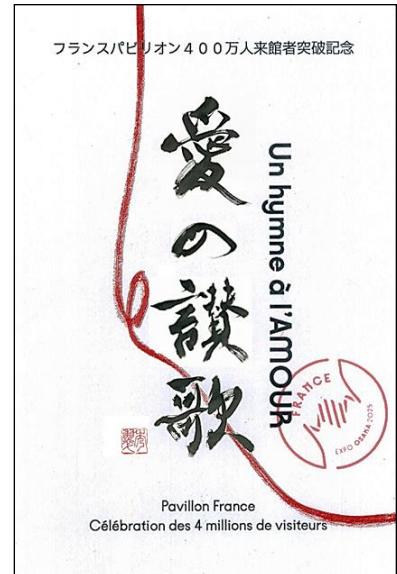
—伝統を継承し、現代に生かす—

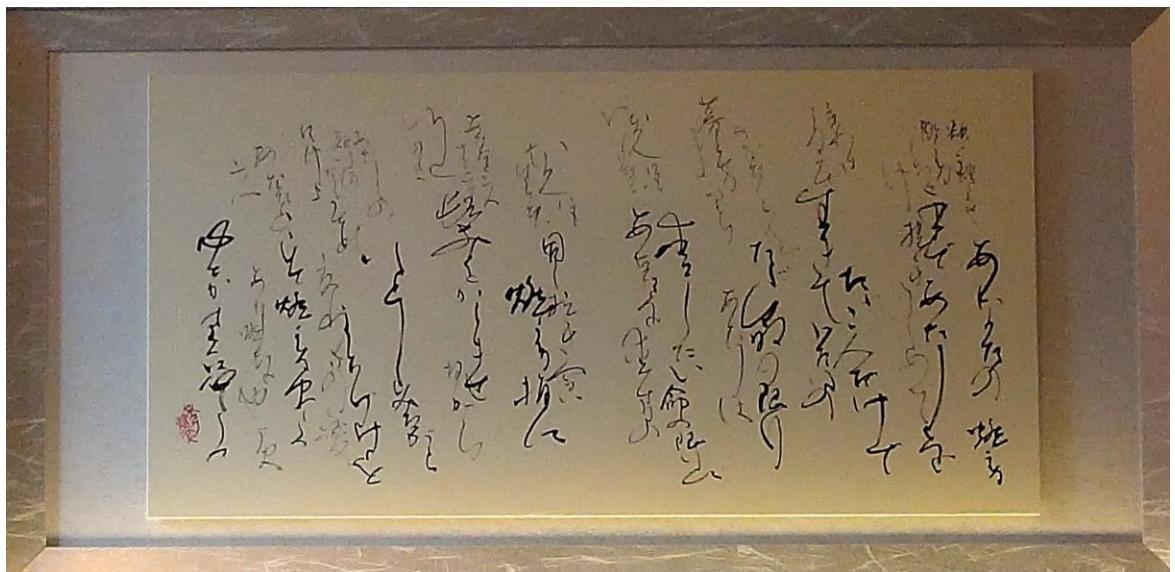
かつて岡倉天心が『茶の本』で日本の茶の思想を語り、川端康成が『美しい日本の私』で日本の自然観を世界へ伝えたように、東アジア文化圏にある、日本という国の風土と歴史によって育まれてきた「日本文化」の魅力を、私は書家として伝えています。

それは文字の形象、言葉の情感、筆の筆致、墨の響きといった、書に内在する古の精神性と美意識を尊びながら、この時代に生きる自らを、さまざまな分野の人たち、西洋文化にも結びつけて、国内外にプレゼンテーションしていくこともあります。

大阪・関西万博 フランス館での文化交流:書作品制作・公開揮毫

■フランス館のテーマである「愛の讃歌」を揮毫。垂れ幕や館内のエントランス及びプロトコルラウンジに掲出。「来館者400万人突破記念」の式典では公開揮毫を実施



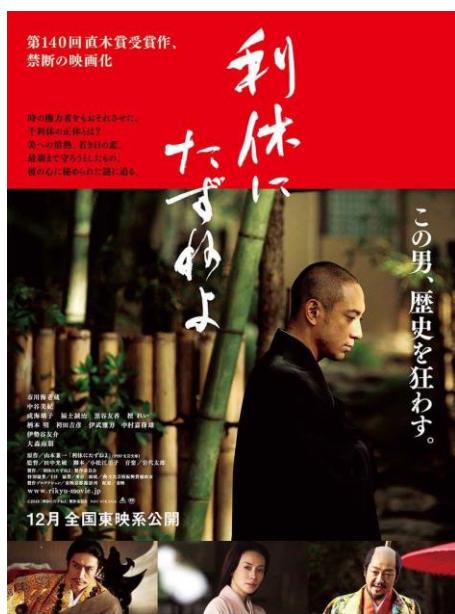


エディット・ピアフ「愛の讃歌」／岩谷時子 JASRAC 出 2507181-501



「正倉院展」題字

伝統文化における書家の活動領域:題字制作



東映正月映画「利休にたずねよ」 大友克洋 総指揮「SHORT PEACE」

日経ビジネス



Netflix「未来日記」



NHKスペシャル年間シリーズ「巨龍中国」



LUMINE 全面リニューアル

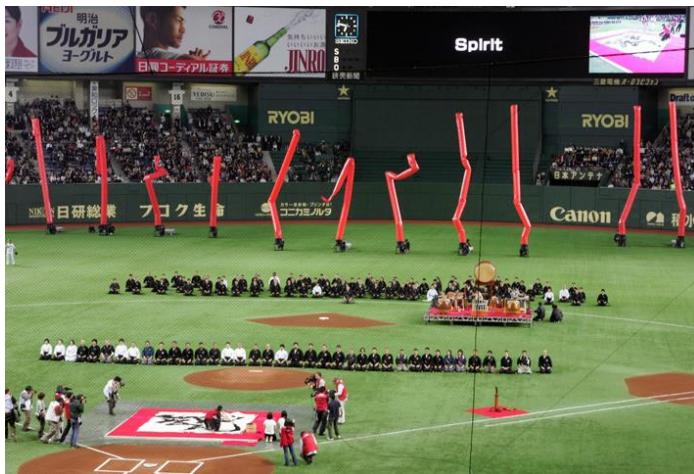


宮内庁正倉院事務所「正倉院展」



NHK BS「にっぽんプレミアム」年間キャンペーン

伝統文化における書家の活動領域:公開揮毫



メジャーリーグ 開幕戦 オープニングセレモニー
(東京ドーム)



日本初の国立博物館巡回展 開幕式典
(東京国立博物館)



京都府主催「京都ヒストリカル映画祭」プレス発表会
(重要文化財・京都府庁旧本館正庁)



日中韓合作映画「マイウェイ」ジャパンプレミア
(ホテル ペニンシュラ東京)



奈良県主催「日本書紀完成1300年」記念式典
(奈良春日野国際フォーラム 豊能堂)



蒙日初 チンギス・カーン「元朝秘史」共同揮毫
(モンゴル国立博物館)

■「日経リュクス」書家・木下真理子が行く、心身を浄化するパワースポット巡り



知恩院



東福寺



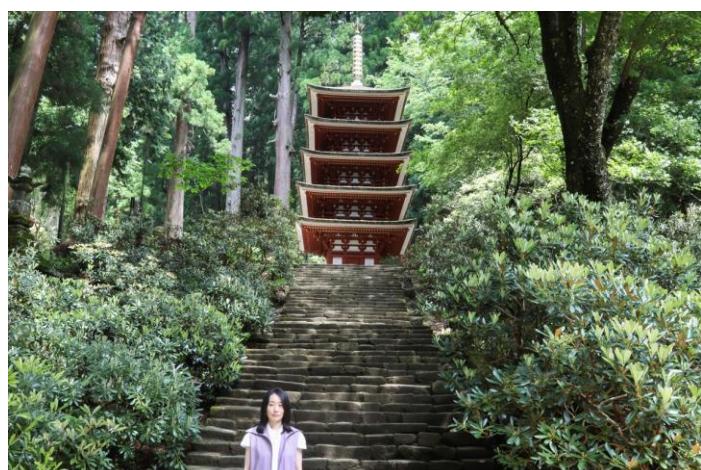
高山寺



三輪山・大神神社



石上神宮



室生寺

■雑誌「婦人画報」4P広告



きつたなまり。
書道の研究者として活躍する
大東文化大学准教授、高木雨林が
卒業後日本近代化する書道作品を発表。
「正義の風」や「國利体」などによく
聞かれる字形が、
時代とともに変遷してきました。
書道を通じて日本の伝統文化を語り継ぐ
幅広い研究者として知られています。

きつたなまり。
書道の研究者として活躍する
大東文化大学准教授、高木雨林が
卒業後日本近代化する書道作品を発表。
「正義の風」や「國利体」などによく
聞かれる字形が、
時代とともに変遷してきました。
書道を通じて日本の伝統文化を語り継ぐ
幅広い研究者として知られています。



「雪肌精MYV」

■コマーシャルフィルム



「INFINITI」NISSAN USA



「α NEX-F3」SONY

美しい文字



特集
美しい文字

メール全盛の現代、日常で筆をもつ機会はほとんどないかも知れません。けれども、商店のタイマーラベルや日本料理店の歓迎など、あるいは芳名録などにふと筆文字目にしたとき、「美しい」と感じることもあるのではないか。しかし、そもそも自分の名前や年齢状に使う文字だけでも筆で書いたら、暮らしに深が加わりそうですね。

日本語の文字は漢字と仮名が使われています。漢字は中国で3000年以上前に生まれ、もともとは人間や神との交信のためであったとされています。漢字が明朝半島を経由して日本に普及し始めたのが墳墓時代。その後、漢字を崩して、日本独自の平仮名と平文時代に及んでしまった。

監修・木下真理子

書家、書号は秀草。読売書法会幹事。高木画廊に勤務。大妻文化大学客員。専門は漢字で、ことに隸書の本懸垂を研究。また女性の個性を生かした漢字仮名交じり書に取り組む。第64回正倉院展、映画「村外にたぬけ」の題字。世界各所で公開講座などで活動中。

DEC. 2014 読売家庭版 2

読売家庭版 創刊600年記念号 卷頭7P特集「美しい文字」監修



全国から講座を探す 青山 キーワードを入力 検索 お近くの教室を探す
▶ 受講規約 ▶ 会員特典 新規ご利用登録 ログイン

NHKカルチャートップ > 青山教室 > 書道・カリグラフィー > 漢字 > 書道と日本文化 ~ユネスコ無形文化遺産 登録へ~

青山教室

03-3475-1151
東京都港区南青山1-1-1
新青山ビル西館4F

地図・受付時間

冬 講座案内
CLICK!!

全国どこからでも
オンライン講座
ご自宅から簡単受講!

NHKカルチャー
ONDemand SEMINAR
いつでも、どこでも
受講できる
動画配信サービス

資料請求はこちら
お気軽にお申し込みください

書道と日本文化
~ユネスコ無形文化遺産 登録へ~

講師：書家 木下真理子

カテゴリー：書道・カリグラフィー > 漢字 / 書道・カリグラフィー > 実用・ペン字

2009年の中国書法、2013年のモンゴル書道に続き、近いうちに日本の書道がユネスコ無形文化遺産に登録される見込みです。本講座では「書く」ことのみならず、書を「見る（眼を養う）」書を読む（古に学ぶ）書を「話す（魅力を知る）」ことを通して、書道の素養とセンスを身につけていきます。そして中国から受容した漢字、それを独自に変容させた仮名、漢字と仮名の交じり合いから浮かび上がってくる「日本らしさ」についても考えます。雅なお香、癒しの音楽を取り入れた空間で、受講生の皆さん方のほどよい関係も大切にしつつ、リラックスした書のひとときを過ごしていただきたいと思っています。

印刷する お友達におすすめ

■Y's (Yohji Yamamoto inc.)との「Calligraphy Collection」

ファッションデザイナー・山本耀司の言葉とポエトリーを木下が書き下ろし、その書を断簡状にして、再構築する、木下独自の「不立文字（ふりゅうもんじ）※」という手法をコンセプトに、服作りの定石である“断裁”と“縫製”によって、“不立文字”作品として仕立てたコレクションライン。

※禪の根本思想で、悟りや真理は文字では伝えきれず、心から心へ伝えること（以心伝心）

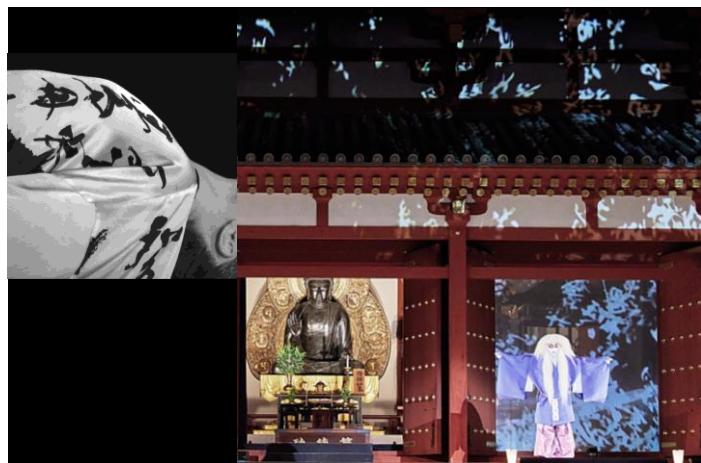
関連情報 https://www.mistore.jp/shopping/feature/women_f2/ys_collaboration_w.html



現代における書家の活動領域:コンセプチュアルアート



「Y's Calligraphy Collection」
(伊勢丹新宿他、全国有名百貨店及び海外)



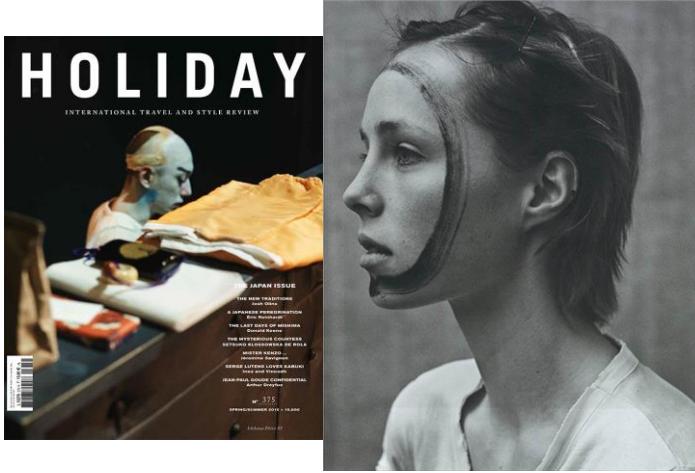
中村獅童 奉納演舞 衣裳・プロジェクトマッピング
(薬師寺 金堂)



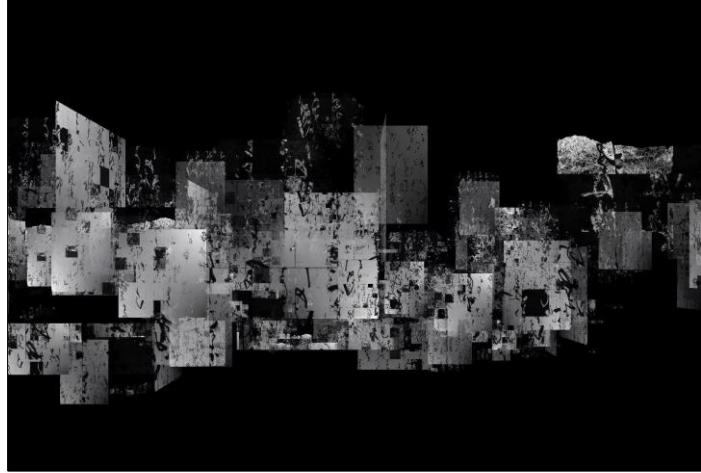
ミラー作品「舞姫」他
(ロシア国立図書館)



書による現代アート作品「茶の本」
(南條史生 総合ディレクター KENPOKU ART)



「円相」
(HOLIDAY MAGAZINE paris)



文化庁主催 コンセプトエキシビション「fragments」
(羽田空港 国際線ラウンジ)

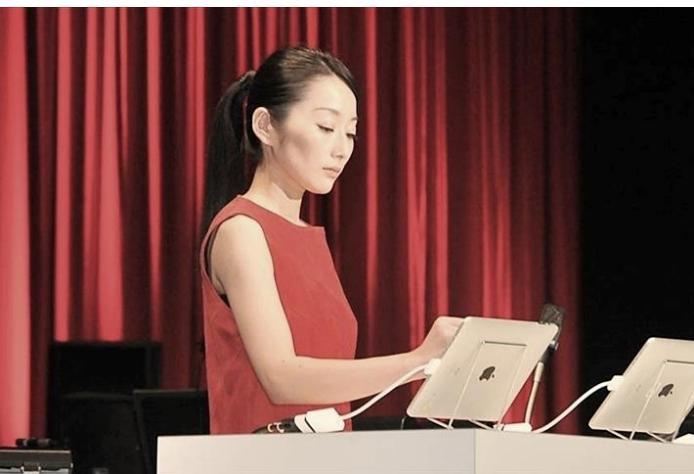
現代における書家の活動領域:ミックスカルチャー



4KTV PV「桃李成蹊」
(Panasonic VIERA)



インフィオラータ 招待作品「花鳥風月」
(ユネスコ世界文化遺産 ノート市/イタリア)



Apple世界初タブレット端末の公開揮毫「利休道歌」
(両国国技館)



新宿 3大ヴィジョンインсталレーション作品「方丈記」
(新宿クリエーターズフェスタ)



TOKYO PHOTO出品作品「能 井筒」
(丸の内 TOKIA)



FENDI 日本上陸50周年
記念キャンペーン

現代における書家の活動領域:メイド イン ジャパン

■ルイ・ヴィトン(ジャパン)他の出資による、海外展開プロジェクト 日本酒「IWA」



日本酒監修



リシャール・ジョフロワ

酒蔵建築



隈研吾

プロダクト
デザイン



マーク・ニューソン

アート
ディレクション

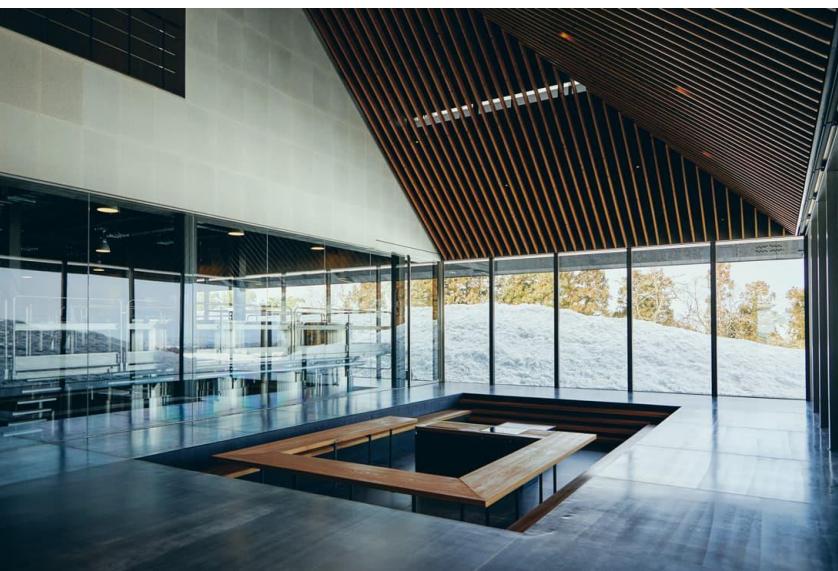


中島英樹

題字
(タイポグラフィ)



木下真理子





「Y's Calligraphy Collection」

メッセージ(敬称略)

あなたの表現は、手と心と精神の間に存在する繊細な結びつきを的確に伝えています。その結びつきこそ、私たちが日本の芸術において深く感銘を受けているものなのです。日本の伝統とフランスの感性が交わるこの出会いは、私たちがフランス館を通じて実現しようとした文化間の対話の力を象徴しています。日本文化の深みを称える、あなたの作品の質の高さと繊細な芸術的アプローチに敬意を表します。積み重ねてきた技術と創造的な感性を対話させるというあなたの取り組みは、最も注目に値するものです。

大阪万博2025 フランス館総監督 ジャック・メール

少年の頃より私が心の糧としてきた言葉を、木下真理子さんに書いて頂きました。「自性清浄心」。仏教の言葉で、人間が本来持つて生まれた本性のことです。背筋を伸ばし、息を止め、一点一画をおろそかにしまいと真っ白な紙に向かってゆく書家の姿が目に浮かんできます。書に凝固された思い、気持ちがそのままに伝わってきました。

第76・77代 内閣総理大臣 桐花大綬章受章 海部俊樹

私はモーグルという激しい競技をしていながら、心には日本の女性らしい柔らかさを忘れたくないといつも思っています。「私らしく」、そう木下さんに書いて頂いた書は、自分の心の中をそのまま表してくださっているような気がしました。強い思いと、雪を滑っているような滑らかさ、そして、女性らしい柔らかさ。素敵な書にして頂きました。

女子モーグル選手 上村愛子

全体的な構成・文字の濃淡のバランスなど、見れば見るほど愛着を感じます。作品は、今の木下先生のライフステージ。年齢を重ねるごとに違った作品になるような気がします。それも見てみたいですね。

ライオン株式会社 会長 藤重貞慶

それぞれの文字が生き生きして、力強く勢いがあり、その一方で全体が凜としていて美しく調和している、そんな木下さんの作品に深く感銘いたしました。

株式会社島津製作所 代表取締役社長 中本 晃

木下さんの書により、改めて初心に戻り、更なる勇気を戴いた思いが致します。

株式会社日立製作所 相談役 庄山悦彦

書は空間芸術である、とは木下さんから教わったことだ。墨と余白のゆるぎない緊張関係を自己の表現としたいと言われる。“自らを媒体”として人前に差し出すこともまた、空間との緊張関係を自己の表現とする営みだろう。木下さんの目はつねに空間のさらに向こうにあるものを凝視しているように思われる。ときに妖しいまでの強い光を放つその双眸に、わたしは魅せられずにはいられない。

中央公論新社 編集長 堀間善憲